

授業・家庭学習で紙でもタブレットでも学習する たつの市立東栗栖小学校の取り組み紹介

開催概要・講師紹介

2022年より開催してきました「みんなの学習クラブ×〇〇セミナー第4弾」は、たつの市立東栗栖小学校の先生方に授業・家庭学習で紙でもタブレットでも学習する取り組みをご紹介いただきました。

■ たつの市立東栗栖小学校 ■

教頭 丸山 岳志 氏

研修担当/5年担任 後藤 智奈美 氏

1年担任 中川 裕太 氏



GIGAスクール構想で大切にしてきたこと

たつの市では、Chromebookの1人1台端末でGoogle Workspaceなどのアプリを活用しています。2021年度まで教育委員会の指導主事として、GIGA・学力向上を担当されてきた丸山先生に、これまでのGIGAスクール構想での活動や大切にしていることをお聞きしました。

まず、学校へ情報提供することを大切にしてきました。このGIGAスクールは、今までとは全く違う新しいICT環境なので、全員でできることから少しずつ、私だけではなく、太子町教育委員会・播磨高原広域事務組合教育委員会の担当者と協力をしながら、学校への情報提供（揖龍GIGAだよりの発行）をしました。内容としては、簡単でおすすめの操作方法、研修会・セミナーの情報提供や実践紹介、おすすめの書籍やホームページの紹介等を週1回、発行していきました。みんなの学習クラブについても学校版で印刷して配布する活用に加えて、1人1台端末で自分で選んで解くという活用や各学校から教えてもらったアイデアなどを紹介しました。

端末の活用については本当に大変なこともありましたが、目指していることとしては、「勉強も楽しく、学校生活をもっと豊かに、自分の力をもっと伸ばし、自分で学び続ける子どもたちを育てたい」ということでした。昨年度は教師も子どもたちも慣れて、チャレンジというところからスタートしていきました。先生も生徒もいろんなところでチャレンジをされていました。失敗もたくさんありましたが、どんな対応ができるのかを一生懸命考えて進んできました。

みんなの学習クラブの活用のポイント

■ 学習技能・学習規律を身につけ、主体的に学習できるよう継続的に支援

定着するために、継続的な使用がまずは大切だと思います。とにかくやってみることで。本校でも最初のプリントを取り組み終わった人から、「自分で問題を選択してチャレンジして答え合わせをする」ということもしていますが、これは急にはできることではなくて、まずは教師と一緒に丁寧に順番を押さえながら「こうやってするんだよ」と学習技能を身につけた後、少しずつ子どもたちに任せていきました。それができてくると、先生は個別指導や確認作業ができるようになってくるのではないかと考えています。そういったことを繰り返していく中で、ある程度学習過程の中にICT活用がだんだん馴染んできて、使いどころなど、先生の感覚も、子どもたち自身の感覚もよくなっていくと思います。中学校での活用動画の紹介もありましたが、ちょうど1年前、先生がクラスルームで課題を配信して、子どもたちの画面が全員違っていたのを見た時は、衝撃的というか、すごいなと感激しました。

ICT端末の活用にはばかり目を向けるのではなく、学びを支える学習規律はすごく大切だと思います。たつの市で情報活用能力チェックリストがありますが、タイピングのスキル向上など、情報活用能力育成も考えながら、子どもたちが主体的に学べるように支えていくことが大切ではないかと思っています。

タブレット活用が始まった2年間の変化と学年による違い

2021年から本格的に始まったタブレット活用と、みんなの学習クラブの授業や家庭学習での活用について、5年担任の後藤先生と1年担任の中川先生にお聞きしました。

■ 楽しく学び、最終的には自分で選んで学習する力がついた/2年生での活用

昨年度は2年担任で、算数では授業の最後10～15分に個人IDでiプリを活用していました。その日の課題を先生から指示して、子どもたちが自分でそのプリントにたどり着けるように指導しました。最初はプリントへたどり着くまでに時間がかかりましたが、だんだん慣れるとすっとたどり着けるようになりました。学習し、答え合わせまで終わったら、そこから定着・標準・発展や前の単元の問題に戻って、自分で選択して学習します。ノートに書いてもいいし、タブレットにペンで書き込んでもいいと選べるように昨年度はしましたが、ほとんどの子どもたちがペンで書くようになりました。iプリチェックも楽しくて、**iプリチェックができることにモチベーションがあり、楽しく学習できた**と思います。後半は**自習になっても習ったところから、自分で選択して自学自習ができる力がついてきたところが、成果として良かったかな**と思っています。

※ iプリチェック…三択からの選択問題で学習内容を楽しく確認できるコンテンツ

■ 算数では範囲のみ指定して、自分で選ぶ家庭学習/5年生での活用

本年度は5年担任となり、土日に端末の持ち帰りができるようになったことで活用方法が増えました。算数では、範囲を指定して3枚と課題を出し、ノートに書いて答え合わせまでするという活用が多くなりました。長期休みでも、5年生になると自分で選べるようになってきて、レベルに応じて、自分の苦手なところを選んでできるようになりました。国語は授業や宿題で印刷したものを配布、社会科はiプリチェックだけなど、教科によって臨機応変な使い方もできると思います。



研修担当/5年担任
後藤 智奈美 氏

■ プリント配布からスタート→範囲のみ指定して自分で選ぶ/4年生での活用

昨年度は4年生の担任でした。最初は紙でたくさん印刷し配布しましたが、iプリチェックを知って、まずは算数の授業の最後にiプリチェックから始めました。この中で、子どもたちがすごく楽しそうにやっていて、学習クラブが子どもたちに合っているなと感じました。他にも、**子どもたちに足りないところや、十分に習熟ができていないところを選んでプリントを印刷して、ねらいに迫ることができたか**と思います。

国語は、漢字が1問ずつ選べて編集できるので、**今覚えてほしい漢字を選んでプリントを作成しました**。算数は問題のレベルを選べるのがすごく良くて、**問題が難しい子には定着、できる子は発展と、子どもたちが自分で選んでいた**と思います。クラスの中で習熟度に差があるので、算数だったら、今日はこのプリントが終わったら前に戻って、ここをしようとか、単元のまとめのページの後には自分でここは弱いからこうしようと、**子どもたちが自分で選んで学習を進められることが良かった**と思います。

■ まずはプリントを配布して活用 / 1年生での活用

今年度担任している1年生は、1学期はパソコンを触ること自体が難しい時期でした。まずは紙でしっかり書かせることを優先しようと、6月半ばぐらいまではタブレットではなく、印刷をメインで活用していました。ここから少しずつ画面を見ながらしていく形でしたが、やはり1年生には書き込みや写すことが難しかったです。夏休みには、問題をうつして学習するという従来の4年生でしていた形ではなく、その問題の番号だけを印刷して、1年生も簡単にできるような工夫をしていました。



1年担任
中川 裕太 氏

発達段階に応じた、家庭学習の取り組み

家庭学習は学校全体で揃えていこうと話しています。例えば端末を持ち帰れる土日は、発達段階に応じて、ノートに書く、選択する、●枚するかなどは違いますが、みんなの学習クラブのプリントから●枚出してというふうに活用しています。

例えば、高学年では、夏休みだったら範囲を指定して、ここからここまでの中で何枚をノートに学習して答え合わせして、直しまでして提出しようという活用をしています。

紙とタブレット活用のバランスは？

みんなの学習クラブの活用について現場の先生から紙とタブレットのバランスについてのご質問を多くいただきます。先生方がどのように考えているのかをお聞きしました。

■ 教科や学年、問題内容に応じて臨機応変に対応（後藤先生）

書く量にもよると思います。例えば、2年生の国語の文法なら、書く量も少なく、マス目も大きいので、そのままタブレットに書き込めます。2年生の算数も書く量が少なくてタブレットに書き込める単元もありますが、5年生の国語だと、やっぱり文字数も多いので書き込みにくいし、算数の計算でも少し書き込みにくい部分があるので、やはり臨機応変に、教科とか内容とか見ながら、対応しています。

印刷するにしても、種類がすごく豊富にあるので、問題を印刷することも選べるというところはとてもよかったと思うので、どちらの利点も使いながら活用しています。



■ 紙、タブレットを選ぶ経験を大切にしたい（中川先生）

紙とタブレットを選ぶ経験が大事なかなと思っていて、紙じゃないとダメな問題も中にはあります。1年生の形作りの単元では、形を実際に紙に書くという問題なので、紙に書いた方がいいと思いますが、反対に、足し算で「 $9 + 5 = 14$ 」と書くだけの問題なら印刷しなくてもいいと思います。少し難しいと思いましたが、**子どもたちに選ばせる機会を作る、自分で決める練習**になります。ハイブリッドで活用していくことで、**自分で決める経験ができるのがすごくいいこと**だと思います。僕も後藤先生と同じでどっちがいいとか、ダメという訳じゃなくて両方使うことで子どもたちの学習の定着が図れるんじゃないかと思います。



■ デジタルの中から読み解く経験も大事に（丸山先生）

経験上から問題や教科によって、書きやすいものはタブレットに書けばいいと思いますが、それに加えて、デジタル上で読んで解くことが子どもたちの経験にもすごく大切だと思っています。複数の資料から問題を解くという経験も大事です。自分の必要な部分を少し大きく写すということも大切な経験だし、どこに問題が書かれているのかななどを紙ではなく、デジタルの中から見つけるということもこれから必要になってくるのではないかと思います。

丸付けはどうしている？

丸山先生の「自分で問題を選ぶとか答え合わせを自分でできることも大切な学習スキルです。」という言葉が印象的でしたが、丸付けができるようになるためのアプローチをお聞きしました。

■ 見本を見せてできるように支援する（後藤先生）

2年生が使い始めたころは、答え合わせがなかなかうまくいかなかった部分もありましたが、**上手な子のところに集まりましょうと、うまくできている子の答え合わせを模範にして見ていく**ことで、少しずつできてきたと思います。5年生はちょうど2年目で、特につまずきもなく、十分習熟してきたと感じています。



■ 丸付けのルールを確認する機会をつくる（中川先生）

宿題については僕が丸付けしていましたが、自主学習に関しては、自分で答え合わせをやってみようとして練習を始めました。**中には答えを写すという子もいたんですが、その子には正しい丸付けの仕方をその都度チェックしたり、声を掛けました。また、最初に全体で丸付けの仕方を確認してから始めました。**基本的な丸付けの仕方ですが、ルールを作り、確認することがすごく大事なかなと思います。

1年生についてはまだ、子どもたちだけでは丸付けはしていないんですけども、3学期以降に少し一回時間を取ろうと考えています。そういう機会を作ることがすごく大事なかなと感じています。

低学年での活用のコツ

■ 分からないことを分からないと言えるように/学習規律を丁寧に指導 (中川先生)

1年生はひとつひとつ丁寧に対応していかないといけないと思っています。5年生の中でもありましたが、すらすら書くということも大事だと思っているので、1年生では手書きキーボードでどんどん書いています。図工の作品を見て、タブレットで感想を書いたりしています。

子どもたちがすごいなと思うのが、こちらが伝えたこと以上に覚えるのが早く、今の1年生は、自分の思ったことを手書きキーボードを使って打てるということです。

タイピングも少しやってみようと思い、ちょっと時間があれば、教えられる範囲でしています。みんなの学習クラブにも関わりますが、やはりひとつひとつ丁寧にしていることが大事で、家庭学習にタブレットを持って帰るときも、学校で2,3回ぐらいは練習をしてから夏休みに持って帰らせたりしていました。やはり、始めたころは、分からない分からないとたくさん声があがりましたが、「分かりません」と言えるようになってほしいので、自分から自分の気持ちが言えることを大切にしています。「分からん分からん」と大きい声で言うのではなく、手をあげて「分かりません」と言えるようになるなど、タブレットの中だけじゃなく、学習規律にも関係してくるのかなと思います。1年生は今後、長期休暇に端末を家に持って帰るようになりますが、次はまたレベルアップをして、ノートに書いてみましょうなど、スモールステップで成長していけたらいいなと思います。

先生方からのメッセージ

タブレットを活用することで、子どもたちの学習が深い学びになってきたし、自分で主体的に学ぶことにすごく繋がっているなと思います。対話をする時間も増えたり、深い対話に繋がるなと思っていますので、私自身もまだまだ使えないことが多くて、助けてもらうことも多いのですが、私もいっぱい研修して進んでいかないといけないと思いますし、学校の研修としても進んでいく必要があると思っています。(後藤先生)

タブレットを活用することで、今まで書くことが苦手だった子どもできるようになって、苦手が苦手じゃなくなっていくのを感じています。みんなの学習クラブも一緒に、今まで書くことが嫌だったけど、iPリチェックならやろうという子が出てきたらいいなと思います。1問でも多く解きたい子どもたちにとっても、時間がなくてできなかつたりすることも多いですが、そういう子どもたちの「もっと勉強したい」という意欲に寄り添えるようになってきています。これからもどんどん活用していき、それぞれに合ったレベルの問題ができたらいいなと感じています。(中川先生)

素晴らしい先生方に囲まれてありがたいと思っています。私の立場としては、こんなことができたらなというときに、ちょっとでも手助けができたらと常々考えています。

学校の目標であったり、こんな子どもたちを育てていきたいというような共通の目標があるからこそ、授業を変えていかないといけないし、そうするとICTの使い方が見えてくるかなと思います。みんなの学習クラブのような学習用アプリに関して言えば、積み重ねてきているデータをまずは先生が活用して、次は子どもたちが自分たちでどう活用していくかというビジョンを持ちながら、少しずつ実際にやって進めていけたらと思います。(丸山先生)

丸山先生のスライドにありましたが「1人の100歩より100人の1歩」を丁寧に実践されている素敵なお取り組みをお話いただきました。ありがとうございました。

アーカイブ動画 (<https://youtu.be/9NBqKmnPmrE>) もぜひご覧ください→→→



株式会社日本コスモトピア 公教育課

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島4-9-28 TAIYOセンタービル

TEL : 06-6390-2100 (受付時間 : 平日9:00~17:00)

MAIL : gaku_mail@cosmotopia.co.jp



FOLLOW US
@gakukuracj